

事業所自己評価シート（公表）

令和 6 年度

職員による自己評価

A 環境・体制整備

- ① 多人数の利用者があると狭く、外に出るグループを作り人数を分けている。
- ② 死角になる場所にならない様に職員を配置しているが人の数が足りない時がある。
- ③ 階段昇降は危険なため、付き添い介助をおこなっている。
- ④ 欠員の補充が急務。

B 業務改善等

- ① 業務システムソフト導入により業務の効率化と保護者様との関係性改善が向上している。
- ② 連絡帳コメントなどからの要望は回答。反映されている。

C 適切な支援の提供

- ① 適切なアセスメント力の強化を行う。
- ② 定期的なモニタリングは、日々の活動の中で行っている。計画の見直しまでに至っていない。

D 保護者、関係機関との連携

- ① 保護者会等で保護者との関係性を強化。
- ② 計画相談事業所、行政機関、学校、同業者等関係機関との連携を強化する。
- ③ 学校との情報共有は主に管理者が対応してる。
- ④ 医療的ケア児の受け入れは行っていない。

E 保護者への説明責任と非常時対応

- ① マニュアル類の整備によるリスク管理強化。保護者への周知の仕方を検討。
- ② 業務ソフト、いっぱい通信等で情報発信力強化と保護者との共有、連携の向上。
- ③ 防災訓練の継続と強化。有事に動ける体制作りと訓練で習得。
- ④ 虐待防止・身体拘束の周知徹底と定期的研修。ヒアリハット事例の共有。
- ⑤ 乳製品アレルギーの管理とおやつ提供。

保護者による評価

A 環境・体制整備

- ① 玄関等が狭く、道路等への飛び出しが心配。
- ② 二階への階段が急。
- ③ 子どもの人数に対して狭さもあると感じる。

B 児童への適切な支援の提供

- ① 家族支援、移動支援が設定されていないと思う。
- ② 長期休みにもっと色々なプログラムがあると良い。特別プログラムも休み中は希望に応じ何回か参加出来ると良い。ドライブが多いと感じる。
- ③ 他の児童クラブ等との交流は特に希望しない。

C 保護者への説明等

- ① 業務ソフト導入で連絡帳等を通じ、子どもの状況をきちんと知らせてくれている。
- ②こちらが伝えていることの周知がされているか不安に感じることもある。
- ③面談はあるが、助言はほとんど得られません。
- ④保護者会等の開催は有難い。
- ⑤利用料等、引落が出来るようにしてほしい。

D 非常対応等の対応

- ① 事故等（怪我を含む）発生した際の連絡で分からないと言われたことがあり不安を感じる。
- ② 子供達の避難訓練は今後も継続して欲しい。

E 満足度

- ① いつも丁寧にご連絡、支援を頂きありがとうございます。支援に満足しています。
- ② 子どもは安心感をもって通所しています。



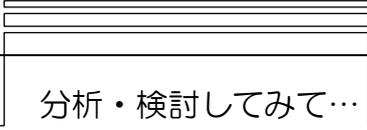
事業所内での分析

【共通点】

- ① 屋外活動に評価と賛同がある。生活リズム、体力健康増進に必要なとの共通認識があります。
- ② 子ども達の個性と能力に気づき、高める専門的支援力向上を保護者は期待している。
- ③ 事業所の活動内容等の情報発信力を高める。業務ソフト、連絡帳の活用拡充に期待が大きい。
- ④ 保護者様との交流機会の継続と強化。保護者懇親会等の継続を実現する。
- ⑤ 事業所ハード面の環境整備、安心・安全を最優先に。特に、飛び出し防止を万全に。
- ⑥ 感染症、コロナ等の発症は今後も継続する事を前提として予防措置を継続実施する。

【相違点】

- ① 感染症対応、災害時の緊急対応等安全面での期待感が高い。対応マニュアル等の整備、閲覧、有事を想定した実践的訓練等の強化が急務である。
- ② 保護者様への助言等情報発信の強化、保護者様との交流・支援・連携の場作りを強化する。
- ③ 支援の質を高める人材確保と計画的な職員研修等による人材育成を長期的視野で継続して行う。
- ④ 計画相談事業所、行政等との連携強化、学校、療育センター、発達支援センター等専門機関との連携拡大を積極的に図る。地域交流の機会を具現化する。



分析・検討してみて…

事業所の強み

- A 放課後等デイサービスの草分け、制度化以前からの長い事業運営実績を持っている。子ども達の成長に合わせたきめ細かな支援対応等に優れている。
- B 小学低学年からの長い利用で保護者様との関係性が深められ、課題等の情報共有を高め、支援への連携が出来る。
- C 経験豊かな児童指導員等職員の配置高く、子ども達への支援の層が厚くきめ細かな支援サービスの提供が出来る。
- D 長い運営実績の中で、関係機関との支援連携体制があり、質の高い広範な支援が出来る。
- E 長い経験から、送迎体制と送迎方法等のノウハウを培い、質の高い送迎が出来る。

安心・安全・暖かい居場所

事業所の改善点

- A 老朽化施設で、安心・安全を優先したハード面の環境整備、バリアフリー対策、ソフト面の対策が日常的に必要な。
- B 緊急対応等のマニュアル整備及び有事の際、確実に活動できる日頃からの教育訓練の実施
- C 支援の質的向上強化のための継続した計画的、体系的な職員教育・研修機会の充実。
- D 専門知識、資格等を持った有資格者の効果的な活用と戦略的獲得。
- E 世代交代を考慮した若手職員の計画的育成。
- F 業務ソフトシステムの有効活用拡充による保護者様との情報共有と関係性強化。
- G 保護者様交流機会の強化、関係機関、地域との連携活動の導入。

新たな「いっぱい放デイ事業」への改革

事業改革への取り組み

事業所の強みを最大限に生かしながら、事業所運営の新たな戦略的改革へ着実に根気よく取り組んでまいります。

- A ご利用者の安心・安全を第一優先に、リスクの先取りと予期を絶やさず、ハード面の環境整備とソフト的な改善を行います。
- B 虐待・拘束防止対応、BCP作成、緊急時対応マニュアル類の整備を進め、併せて、有事の際、確実に活動できる避難訓練等の実施を定期的に行います。
- C 長年培った支援ノウハウを更に強化しながら利用児童、保護者様への支援力強化と情報共有、連携の強化を図り、日々の支援力を高めます。
- D 支援の質的向上を図る人材育成と獲得並びに専門知識、資格を保有した人材の有効活用を計画的に進めます。事業の世代交代を見据えた若返りを戦略的に進めます。
- E 業務ソフトシステムソフトの活用拡充を進め、事業の効率化を進めます。
- F 保護者様との親睦交流会等を強化します。保護者様同士の連携の広がりを支援してまいります。
- G 保護者様を始め外部への情報発信力を強化します。「いっぱい」の理解者、ファンを増やす情報発信、外部との連携活動を積極的に進めます。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

コロナ禍後の支援活動の環境変化、同業放デイ事業所の急速な増加による競争の激化、発達障害児童の利用拡大による支援方法の変化等々、事業を取り巻く環境が激変しています。自己評価の再分析により変化が一層明確になると共に、新たな環境に立ち向かうための自社の強みを最大に生かした支援の差別化と高度化を強力に推進し、環境変化に打ち勝ち、継続できる実力、老舗としての自信とプライドを改めて強く意識しています。

事業所名：いっぱい 放課後等デイサービス

管理者 鈴木葉子、特別顧問 竹下惇